

あ と が き

2021（令和3）年度は、先行き不透明な不安と心配の中での幕開けであった。振り返ると新型コロナウイルス感染症との戦いの一年間でもあった。長期的な感染拡大により、わが国の危機管理体制の脆弱性が露呈された。心許ないことである。春先から三密回避等の対策の徹底に努めたが、新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず事業環境が激変した。

2021年度の事業計画作成に当たっては、コロナ禍収束の兆しが見えない中、事業への影響の程度がわからず、可能な限り情報を集めることに専念した。当該部署にはご苦勞をかけた。事業は相手があることであり、人間関係も含め日頃の信頼関係の大切さを改めて実感した。役職員一同、事業を進めるに当たり、2020年度に学習した事例を参考に、さらに工夫を重ねた結果、大きな混乱もなく実施することができた。おかげさまで2021年度は、努力目標も含めて事業をコロナ禍前に近い状態に戻すことができた。

そのような中、2021年には56年ぶりに東京2020オリンピック・パラリンピックが猛暑の中で開催された。開催地が東京に決定された当初から、国立競技場設計料に絡む疑惑やロゴマーク盗作、さらに女性蔑視発言等の問題が国民の耳目を集めた。PCR検査対応の不備や新型コロナウイルス（変異株）感染拡大の恐れ等もあり開催の是非が問われたが、紆余曲折を経て開催に至った。幸いなことに、一部関係者や選手に感染者が出たものの心配された大きな事故もなく無事閉会式を迎えた。また前例のない無観客開催となったが、新競技のスケートボード等で日本人選手がメダル58個を獲得する活躍を見せた。

さて、2021年10月31日に行われた任期満了に伴う衆議院選挙では、政権与党の自民党が単独で過半数を獲得した。喫緊の課題としてコロナ禍で疲弊した経済の立て直し、少子高齢化対策、年金問題等々の課題が山積している。歴代101代目の岸田文雄首相をはじめ各閣僚も国民の期待を裏切ることのないよう手腕の見せ所である。

一方、本会においては、理念である「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、公益法人の名に恥じないよう良質で精度の高い検査、健（検）診機関としての矜持を保ち、今後も東京都民の健康増進ならびに予防医学事業の推進に貢献していく所存である。

最後に、この度2022年版年報（令和2年度活動報告・通巻第51号）を発行するにあたり、東京都をはじめとする行政当局ならびに東京都医師会、東京産婦人科医会、東京小児科医会等、関係機関の先生方のご指導ご支援に感謝を申し上げます。

2022年3月

公益財団法人東京都予防医学協会
専務理事 小川 登